

京都大学地理学談話会

会 報

第30号



2019

[目次]

寄稿

春, カタルーニャにて……………	安形 俊太郎 (2005年卒)	1
点をつなげて……………	木野 俊輔 (2007年卒)	3
世界が開けた4年間……………	永見 佳央里 (2010年卒)	6

秋季地理学談話会の報告 …… 8

〈OB交流会〉 講師：山名 康晴 (2005年卒), 広木 拓 (2006年卒)	8
〈講演会〉	9
「—地理学徒の教育実践—高校教育と教職教育45年を振り返って—」	
…………… 河合 保生 (1975年卒)	

研究室便り

〈成田孝三先生のご逝去について〉……………	13
〈総合博物館での地図資料等の利用について〉……………	14
〈外国人研究者～滞在中の方～〉……………	14
〈第七回東アジア人文研究ワークショップ開催と参加〉……………	14
〈画像アーカイブの公開～古地図とステレオグラフ～〉……………	15
〈地理学教室への寄贈図書～2018年度～〉……………	15
〈研究室の動静〉……………	18
〈新メンバーの自己紹介〉	
〈2018年度の実習旅行〉	
〈学部卒業生・院生等の進路〉	
〈院生の研究状況の報告〉	
〈学位の取得〉	
〈2019年度講義題目〉	

事務局から

〈地理学談話会2018年度会計報告〉……………	22
〈訃報〉……………	23
〈住所不明者についてお願い〉……………	23
〈オープンキャンパス：2018年度の報告と2019年度のお知らせ〉……………	24
… 〈2019年度秋季地理学談話会のお知らせ〉……………	25

※表紙写真：The Stereograph Collection at Kyoto University から,
Propriete B. K. 社製, “Les Théâtres Paris” シリーズ, “Robert le diable premier acte scène III”

寄稿

春、カタルーニャにて

Denso Barcelona S.A.U
安形 俊太郎（2005年卒）

オフィスにはもう私一人しか残っていない。24 時間稼働の工場現場は煌々とした灯りの元、夜勤のワーカー達が黙々とエンジン制御コンピューターやメーター等を生産し続けている。夜 10 時半、これから真っ暗な夜の高速を飛ばして、約 60 km離れたバルセロナ市へと帰宅する。

私は現在、スペイン・カタルーニャ州の州都バルセロナ市に住んでいる。田中先生から今回、会報のエッセイ執筆のお話をいただき、折角の機会なので、なかなか日本では情報の少ない、カタルーニャ州について、紹介させていただければと思う。

私は 2001 年に京都大学文学部に入学、03 年から地理学研究室で田中ゼミに所属した。在学中は国内・海外問わず、一人旅が好きで、旅の途中で様々な風景を見るうちに、その土地でどのような産業、特に農業・漁業・林業等の一次産業が営まれているかに、大きな関心を抱くようになった。そうした背景から主に農業に関する地理学論文を多く読み、卒業論文作成時も地元愛知県渥美半島でフィールドワークに何度も赴いたのは良い思い出である。

2005 年に自動車部品大手のデンソーに

入社した。入社動機は極めて単純で、海外勤務のチャンスが多いからである（某経済紙の調べによると、日本ではトヨタ自動車に次いで、2 番目に海外出向者数の多い会社らしい）。実際に入社 2 年目で南アフリカとトルコに海外出張にいかされ、20 代のうちに海外勤務できるかと期待したものの、実際にはなかなかその機会は訪れず、入社 13 年目の 2017 年 11 月に念願になって、初の海外勤務となった。

現在の職場であるデンソー・バルセロナは社名にバルセロナと付いているものの、海沿いのバルセロナ市内にあるわけではなく、カタルーニャ州バルセロナ県の内陸部、マンレザ市郊外の工業団地に立地する。カタルーニャ州について、簡単に説明すると、スペイン北東部、フランスとの国境に位置し、面積は日本の関東平野とほぼ同じで、人口は約 760 万人。独自の言語、文化を持ち、近年、独立の気風が非常に強い自治州である。言語もカタルーニャ語とスペイン語の両方が公用語で、バルセロナ市内ではスペイン語を話す人も一定数いるが、会社のあるマンレザ市近郊では、ほとんどカタ



会社近くのポピー畑

ルーニャ語のみ。会社でもローカル社員同士の会話はカタルーニャ語が当たり前のため、京大で偶然、スペイン語を第二外国語で取ったものの、残念ながらあまり役に立たない（もっとも、もっと真面目に勉強しておけば良かったと思わざるを得ないが）。



会社のクリスマスパーティーで
部署の仲間たちと（左端が筆者）

カタルーニャ人は自称真面目で勤勉，他地域のスペイン人から言わせると，ケチだとか．しかし彼らは勤勉であることに誇りを持っており，事実，スペイン国内の他のどの州よりも経済的に発展し，GDP 総額はポルトガルやフィンランドのそれを上回る．実際，会社でも年度計画立案の繁忙期や急な顧客からの見積回答を求められた際は，午後 10 時過ぎまで働くローカル社員も珍しくない．ただし，残業を厭わないのは主に係長格以上で，大抵の一般社員は通常午後 5 時半から 6 時半の間に帰宅してしまう．それでもスウェーデンやベルギー，ドイツ等，他の欧州拠点の出向者と話をすると，うちは課長格以上のローカル社員でさえ，午後 5 時になると帰っちゃう，バル

セロナのローカル社員は良く働く！と言われるくらいなので，欧州他国と比べても，やはり勤勉な民族なのだろうか．昔はスペインと言え，シエスタなる昼寝の習慣があつて，何事にも大らかで，明るくのんびり，といったイメージがあつたが，少なくともここ，カタルーニャでは当てはまらない．ただそうは言っても，ラテン気質で多少大雑把なところはあるし，明るい人たちが多いので，こちらで彼らと仕事をすると，毎日午後 9 時，10 時過ぎまで働く日本人の働き方が世界的に見てもおかしいよな，と思わざるを得ない．

地理学的な視点でカタルーニャ州を見ると，地中海性気候で晴天が多く，かなり乾燥している．主な産業は自動車や機械，化学，繊維等の工業，農業，そして観光業．地中海沿岸は平地が少なく，緩い山地が連なるのに対し，内陸部は緩やかな丘陵地帯が多く，酪農や牧畜が盛ん．バルセロナ市から車で 15 分も走ると，見事な若草色の牧草地が所々に広がる．ブドウ，オリーブ，アーモンド等の果樹園や，小麦，ジャガイモ，ヒマワリ等の畑が広がる光景はどことなくほっとする．また，中世の姿そのままの石造りの村や，丘の上に建つ古城があちこちに残っており，休日にそれらを日帰りで巡るのが，私の楽しみとなっている．

もともとカタルーニャ公国の首都だった州都バルセロナは 19 世紀前半，繊維工業を中心に産業革命がおこり，建築家アントニ・ガウディのパトロンとなったエウゼビ・グエルら，多くの資本家が生まれた．裕福になった彼らが，競ってモデルニスモな

る当時の最新建築を取り入れたため、バルセロナは現在それらを観光資源に、世界有数の観光都市となっている。アントニ・ガウディが設計したサグラダファミリア等、有名な建築物がたくさんあるので、詳しく知りたい方は各種観光ガイドブックを参照されたい。



聖山モンセラット

在住する者としてお勧め観光スポットを一つあげるとしたら、バルセロナ市から北にある聖山モンセラットをお勧めする。丸みを帯びた鋸の刃が連続するような、非常に奇妙な形をした岩山で、中腹にマリア像を祭る教会・修道院がある。古くからキリスト教の聖地とされ、カタルーニャ人の心の故郷とも呼ばれている（日本人にとっての富士山のようなものだろうか）。アントニ・ガウディはこの岩山の形に着想を得て、サグラダファミリアをデザインしたそう。毎朝、会社に通勤する際に、高速道路でこの岩山のそばを通過するが、朝日を受けて朱に染まる岩肌の美しさは、思わず見とれて、交通事故を起こしそうになる程である。

私自身、赴任してまだ一年半という短い期間で、まだカタルーニャ州の魅力をさほど語れるわけではないが、本稿を読まれた方が、少しでもカタルーニャ州に興味を持っていたければ幸いである。特にカタルーニャの春はアーモンドや菜の花、ポピーの花が咲き乱れ、丘の牧草の若葉は青々と茂り、空は青く、心地よい風が吹く素晴らしい季節。機会があれば是非カタルーニャ州を訪れて、その魅力を直に感じていただきたい。



市内一の観光地サグラダファミリア教会

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

点をつなげて

日本郵便株式会社
木野 俊輔 (2007年卒)

およそ 10 年ぶりに田中先生からメールをいただき、談話会報のエッセイ執筆の依頼があった。懐かしさと嬉しさで二つ返事で引き受けたものの、冷静に考えると、エ

ッセイの執筆などやったこともないので、さてどうしたものかと思いつつも、当時のことを思い出しながら与えられたスペースを埋めていくことにする。

私が京都大学に入学したのは、2002年のこと。宮崎県延岡市の高校を卒業後、2年間の浪人生活を経てのことだった。

浪人生活が長かったため、なるべく経済的負担は軽くしたいと思い、入学当時は寮生活をし、大学にはほとんど行かず、アルバイトに明け暮れる生活をしていた。

そんな生活を2年続けているうちに専攻を決める時期となってしまったのだが、全く何も考えておらず、高校時代から漠然と地理が好きだったこともあり、地理学を専攻することにした。

ただ、入学以来怠けていたつげが回って、地理学教室に入ってからしばらく全くついて行けず、教室にもなじめない状況が続いた。

そのような環境を変えたいと思い、語学留学という名目で、1年間休学を申し出てイギリスで生活をした。留学先は Margate という海辺の小さな町で、ロンドンからバスでおおよそ2時間ほどのところにある。

イギリス滞在中は、大学のことはすっかり忘れて、語学学校へ通学するかたわら、格安航空券を利用して、フランス、ドイツ、スペインといったヨーロッパの国々を旅行し、名所旧跡や美術館巡りをしたりして過ごしていた。

現地で友人となった他国の留学生のホームステイ先のホストマザーと直談判して居候させてもらったりできる程度には語学力

が上達したところで、日本に帰ることとなった。せっくなので帰りは陸路で帰ることとして、現地でチケットとビザの手配を行った。

なんとか北京までの移動のめどがたったため、イギリスを立ち、フランス、ベルギー、モスクワ、北京と船、鉄道を乗り継ぎ移動した。

大陸を移動する中で、徐々に言語が変わっていくのはもちろんのこと、文化圏、気候帯が目に見えて変わっていくのは大変興味深かった。特に、ロシアではシベリア鉄道に乗れたこと、その車窓から北半球特有の冷帯気候のタイガや、日本ではお目にかかれない広大な砂漠や地平線が直に見れたことは本当に印象深いものだった。



2005年、ロシアのとある駅にて

なんとなくであるが、地理学を専攻していて良かったと思える経験であった。この経験があったから卒業までモチベーションを保っていたのかなと思う。

ただ、残念なことに、最後に天津から船

で日本に帰って来た時にはイギリス出発から2週間以上経ってしまい、その間にすっかり身につけた語学力もなくなっていた。

帰国後は、社会へ出たいという欲求もあったため、卒業して就職すべく、心気一転、大学にも真面目に通学し、地理学教室にも頻繁に足を運ぶようになった。

特に、卒業論文提出期限が差し迫った年末年始は地理学教室に行くことで論文作成が進む気がして、無駄に長時間入り浸っていた気がする。

その甲斐あってか危ぶまれていた卒論提出も乗り切り、休学をあわせて5年で卒業できた。

ただし、これは学校にもあまり行かず、海外へ留学したりとふらふらしていた自分を見捨てず、暖かい目で見守ってくれていた田中先生のおかげでもあると思っている。

社会へ出たいと言いつつもここでもどんな職種、どんな企業に就職したいかということ全く考えていなかった。このため、試験で合否が決まる公務員の就職を目指し準備を進めた。しかし、動き出した時期も遅く準備不足であったため、案の定ことごとく不合格となった。そんな中、折しも日本郵政公社（現日本郵政グループ）が民営化する混乱もあったためか、幸運にも採用が決まったため、これも何かの縁と思い、就職することにした。これが2007年のことであり、自分でも不思議なことに現在も在職している。

郵政公社入社後は郵便局で数ヶ月研修を行ったのち半年後に本社勤務となり、郵便

事業の法人営業部に所属することとなった。

主には営業の推進管理を行う担当であったが、営業の提案にあたっては、GISデータによる効果的なダイレクトメールの送付先の提案や、統計情報を用いたターゲット層の選定等、これまで研究室で学んでいたものが、実際の企業において活用されていることを改めて実感させられた。

また、営業目標の設定においては、地域の市場規模等を考慮して設定を行うということで、統計情報等のデータを活用した分析を行う必要があり、ここでも自分が研究で学んだことと無関係ではないということを知った。

本社での勤務の他、支社、郵便局など地方での勤務経験を経て、現在は本社の経営企画部門で勤務している。

業務の内容としては主に会社の事業計画やそれに係る計数の作成、支社、郵便局に係る損益管理についての計画や推進管理に関する制度設計等を日々行っているところである。ここでは会計の知識が必要となることがしばしばあり、これまで敬遠していた財務会計や管理会計の知識が否応無く求められており日々悪戦苦闘しながら業務にあたっている毎日である。

ただ、この経験もいつかどこかで何かに繋がっていくのだと思いながら、できる限り楽しむようにしている。

このように振り返ってみると、自身の人生は明確な目的もなくいろいろなところに寄り道しているが、これからもいろんなところに寄り道しながらこれまで学んだこと

に加えて、新しいことに興味を持ち続けてその時々で様々な点と点を繋げていければと思う。

そのような考え方で生きているので、大学生活に特段の悔いはないが、京都に在る間は、何気なく生活していたが、離れてみると、魅力的な場所、行ってみたい場所がたくさんあり、当時当たり前に思っていた環境は今思うととても素晴らしいものであったと実感している。時間を作って京都へ行きたいという思いも少なからずあるが、仕事をし、家庭を持った現在、なかなか思い立ってすぐに実行するということが難しくなった。

このため、現在、地理学教室で学んでいる皆さんにおいては、今の環境（物理的にも精神的にも）の素晴らしさを改めて認識していただき、十分に満喫していただければと思う。

以上、思いつくことをとりとめもなく書き綴ってみた。

学生のみなさまに何も参考になるようなことがなかったと思うが、地理学教室がこれからも私のようないい加減な人間も温かく受け入れてくれる寛大な場所であることを願って筆を置きたい。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

世界が開けた 4 年間

長岡市立関原小学校
永見 佳央里 (2010卒)

地理学研究室をはなれて、8 年になります。学生時代は、随分自由に暮らしていました。研究室では毎週お好み焼きを焼いたり、鍋をしたり。「私の研究どうなるんだろう。」という不安も忘れて楽しんでいました。いい香りが残る翌日の研究室に入っても、広い心で許してくださっていた先生方に、心から感謝です。そういえば、くさやとシュールストレミングを食べてみたこともありましたが（これは屋外です）。文学研究科全体に迷惑をかけたように思います。もう二度とあの缶を開けてみようとは思いますが、とても良い経験になりました。

研究（していたというには忍びないほどですが）について少しお話しします。学部 3 回生の頃にフェア・トレードに興味をもちはじめました。やがて生産者の話が聞きたいと思うようになり、大学院でインドネシアのコーヒー生産者に会いに行くことにしました。当時の私にとって、海外での現地調査は大きな冒険でした。インドネシア語はもちろん、英語もろくに話せず、本当に調査できるのか自信がなかったからです。指導教官であった小林先生や田中先生が後押ししてくださらなければ、文献やネットの資料からイメージするだけで私の研究は終わっていました。

初めて訪れたインドネシアの街の中心部は整備されていて、大きなビルや巨大なショッピングモール、携帯電話の普及率にも驚かされました。イスラム教に触れることはそれまでほとんどなかったので、お祈りの時間を伝えるために町中に響き渡るアザーンや、女性が身に付けるカラフルなベ-



トラジャのコーヒー畑にて

ルは、とても新鮮で刺激的でした。コーヒー畑に行くのももちろん初めてでした。最初に訪れた畑は、ジャングルの中にぽつぽつとコーヒーが植えてあるようなものでした。マンゴー、アボカド、パッションフルーツなど、多種多様な植物の中に赤い実をつけたコーヒーの樹が点在する光景は、日本で思い描いていたものと大きく異なりました。畑の主人はとても親切な方で、コーヒー豆の収穫から選別作業まで一つ一つ丁寧にを見せてくださいました。生産組合の事務所で豆をかじらせてもらい、粉をカップに入れてお湯を注いだコーヒーを飲み…目で見て手で触れ、味わう中で、インドネシアのコーヒーに対する理解が少しずつ深まっていったように思います。「フェア・ト

レードで本当に生産者の生活は豊かになっているの？」が私の研究テーマでした。ある団体のフェアトレード認証を受けている生産組合の方に、「認証を受けて、いいことありました？」と尋ねると、「豆は他より高く買い取ってもらえる。」と言い、認証で得たお金で建てた倉庫も見せてくださいました。一方、「認証」を得るのにお金がかかって、元手のない人には苦しい…」、「経営がうまくいかずこの組合はやめてしまった」という声もありました。きっと様々な文献に、こうした記述はいくつもあったのだと思います。そして私の目にしたものはごく一部にすぎません。それでも、目の前でコーヒーを飲みながら語る生産者お話や、設備の整った立派な倉庫、そしてもぬけの殻となった組合の事務所は、それまで読んできたものの何倍も説得力があり、フェア・トレードの様々な側面に気付かせてくれました。

研究ということで、インドネシアに計3か月ほど滞在することになりました。その期間のほとんど、地元の方のお宅に泊めて



遊びに来た仲間とアチェの子どもたち

いただきました。大家族のお母さんが、畑で取れた野菜や果物を使って、毎日おいしいご飯を作ってくださいました。他にも、コーヒーの生産者のもとへバイクで連れて行っていただいたり、インタビューの許可を取っていただいたり、地元の皆さんの優しさがなければとても研究を続けることはできませんでした。私は今でも、本で読んだこと、テレビやネットで見聞きしたことで、その国、あるいはそこに住む人々のイメージを膨らませてしまいがちです。しかし、地理学研究室で過ごした4年間は、私に「目で見ること、触れて確かめることの大切さ」を教えてくださいました。そうすることで、自分の世界が開けたように思います。私は今、小学校で英語を教えています（研究室の仲間が英語の特訓に付き合ってくれたおかげで、何とか話せるようになりました）。授業が楽しく、この仕事に就いて本当に良かったな、と感じます。今度は



卒業旅行で訪れた
ウユニ塩湖手前の温泉にて

私が子どもたちに、直接触れて味わって、自分の世界を開いていく楽しさを伝えていきたいです。最後になりましたが、研究に協力してくださったインドネシアの方々、背中を押してくださった先生方、自由な時間を共に過ごし、たくさんの良い刺激をくれた研究室の仲間には、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

秋季地理学談話会の報告

2018年10月27日、文学部新館の地理学実習室と地理学生研究室で、秋季地理学談話会を開催し、卒業生や在学生のみなさまが参加されました。講演をしてくださった河合保生氏（1975年卒）や、OB交流会で講師を務めてくださった卒業生の方々に厚く御礼申し上げます。

OB交流会と講演会について、報告します。

<OB交流会>

卒業生の山名康晴氏（エムケイ（株）、2005年卒）と広木拓氏（日本貿易振興機構、2006年卒）のお二人が講師を務めてくださいました。在学当時の思い出や社会に出るまでの体験、社会に出てからの歩みなど、エピソードを交えながら、アドバイスだけでなく、温かい励ましの言葉もいただきました。活発な質疑や意見交換があり、楽しい交流

の機会となりました。

講師の方々と司会者（芝田篤紀（D3）と吉野月華（4回生））との間で打ち合わせして、進行内容も企画していただきました。ありがとうございました。



OB交流会の様子—山名氏



OB交流会の様子—広木氏



講演会の様子—河合氏

<講演会>

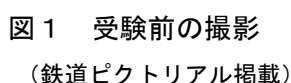
「一地理学徒の教育実践 —高校教育と教職教育45年を 振り返って—」

ノートルダム清心女子大学
河合保生（1975年卒）

1 はじめに

1952年に現在の岡山市に生まれ、岡山大安寺高校を経て1971年に京大工学部資源工学科に入学しました。しかしながら、必ずしも進みたい分野ではなかったこともあり、転学部案内の掲示を見つけた瞬間、文学部への転学部を決意しました。試験はなく、面接を受けた覚えもありません。もちろん志願書には、人文地理学への思いを熱く認めたことは言うまでもありません。こうして首尾よく文学部に転部でき、3回生では希望どおり人文地理学専攻に所属できました。もっとも学習意欲に火が付いた

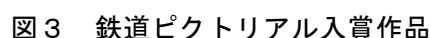
こつて8月には三江北線のC 56や12月には終焉間近い石北本線のD 51、留萌本線のD 61などを撮影に行ったのは、今から思えば呆れる行動でした。



当時の文学部生にとって民間への就職は一顧だにせず、大学院をめざす学生が大半で、私もそのムーブメントに押され受験するも不合格でした。原因は勉強不足で、とりわけ地理学が不出来であったのは、それとなく耳に入ってきました。再起を期して4月から聴講生として勉学に励むことにしましたが、教員免許状を取得していたので教員採用試験の勉強も併せて行い、岡山県・大阪府・愛知県の合格を得ることが出来ました。結局、家庭の事情から大学院受験は断念し、地元岡山県の高校教員になった次第です。

最初の勤務校は、農業経営科他3学科からなる津山東高校で、3年間勤務しました。普通科進学校しか知らないものにとっては

図2 ブドウ産地の動向



カルチャーショックでしたが、研修では進んで研究授業や発表を行うほど、研究熱心？でした。3年目には初の海外旅行（ヨーロッパ4週間）にも行くことが出来、後の地理教材作成に大いに役立つことになりました（図3）。

2校目は新設の備前東高校で、7年間勤務しました。普通科進学校を創るという熱気あふれた職場で、やりがいを感じ、授業でも若さを魅力に、大半の生徒が地理選択となるほどでした。3年目には国公立大学進学クラスを担当し、後に教職に就いた生徒が多数出たことには喜びを感じました。

3校目は伝統校の岡山朝日高校で、15年勤務しました。20年以上在職の教員が多数おり、若い教員は仕事量も多く日々鍛えられました。「よく飲む学年は、大学進学実績がよい」と教育(鼓舞)され、ノミ(飲)ニケーション力も向上しました。11年目から教務主任として、学校改革の最前線に立っての仕事を担うことになりました。当時、京大、東大の合格は低迷を極めており、その復活が求められていました。いかに意欲的で向上心のある優秀な生徒を集めるかを実現するため、定員の1割を特別選考(今日のAO入試)とするなど斬新な取り組みを行った結果、京大+東大で30数名合格するまでに進学状況が改善されました。

2001年には教頭となり、和気閑谷高校、岡山大安寺高校で各2年間勤務しました。教頭職は中間管理職としてやりがいはあるものの、経験不足の教員の指導助言や生徒募集など多くの苦労がありました。母校の

岡山大安寺高校では、進学実績の低迷を打破するべく、6年制中等教育学校への移行を構想し、その実現をめざしました。現在では県下初の公立中等教育学校として難関大学へも多数合格するようになり、思い描いた構想の実現が出来たことに喜びを感じています。

高校勤務時には早く（1985 年ごろ）から地理授業にパソコンを導入し、地球観測衛星「もも（MOS-1）」の画像利用や、生徒とともにハイサーグラフやケッペンの気

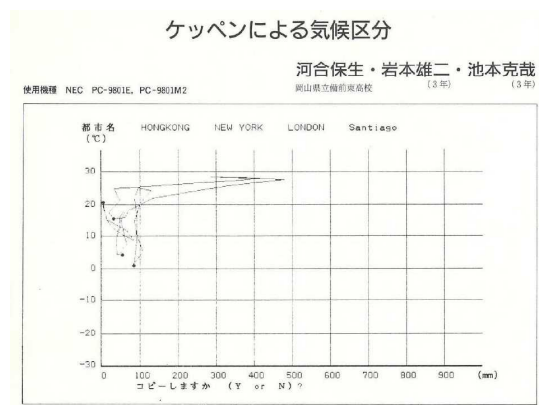


図4 ハイサーグラフの作成

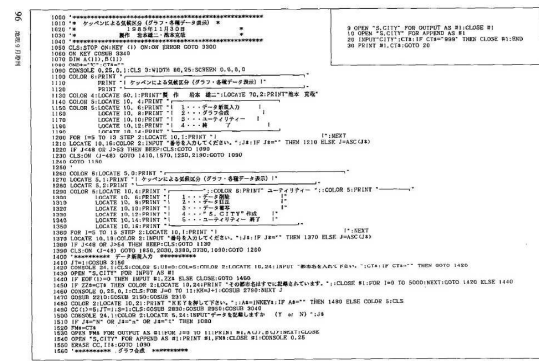


図5 気候判定プログラム

候区判定のプログラムを作成し、その成果は雑誌「地理」にも掲載されました（図4，図5）。

3 ノートルダム清心女子大学での教育実践

2005 年 4 月から、地元のノートルダム清心女子大学で勤務する機会を得ました。文学部に創設された現代社会学科で教職課程担当教員としての採用でした。高校教員と比較して格段に自由な雰囲気、大学の魅力を感じました。ただ、担当科目は、教職課程の科目、地理学関係科目、人文地理学ゼミでの指導など多岐にわたり、授業コマ数も多く教材作製に追われる日々が続きました。当初なかなか合格者が出なかった教員採用試験にも徐々に合格者ができるようになり、現在、約 20 名が教諭として教壇に立っていることは教師冥利に尽きます。最近ではフィールドワークの手法を学ばせるために、大学近隣エリアにある奉還町商店街と連携して岡山駅西口エリアマップの作成にも参画させています。また新学習指導要領では必修科目として「地理総合」が新設され、その中の主要な指導内容の 1 つに GIS があることから、主に地理院地図や MANDARA を利用して GIS を活用した指導法を教授しています。

4 まとめ

現在教職課程主任の役職柄、教職の意義を語る機会が多くあります。主に、大学での学びの成果（専門性）を生かせること、出身地での勤務が可能なこと、生徒の成長

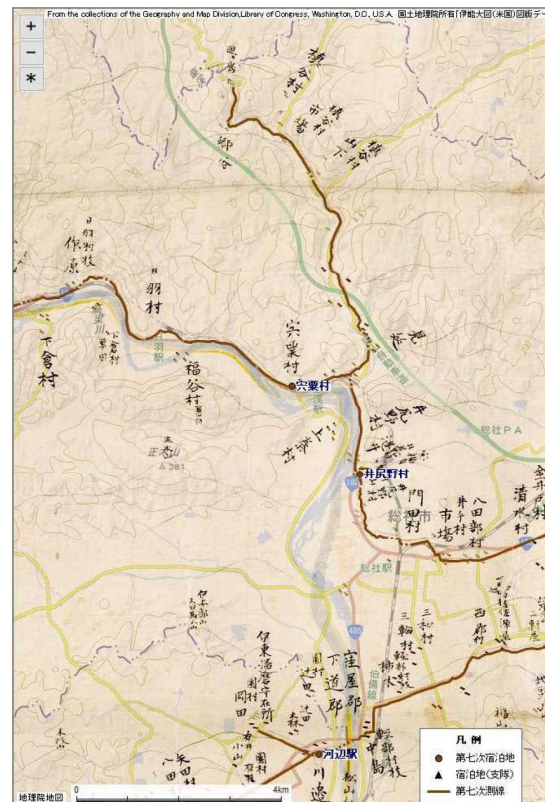


図6 伊能忠敬第7次測量の足跡
(豪溪への測線)

に寄与できることなどを伝えていますが、院生時代に非常勤講師勤務ができることもメリットと言えます。当面、教職に就く意識はなくとも、教員免許を取得しておくとか何とか役立つことがあるので、中学校社会、高校地理歴史・公民の3点セットでの取得を勧めます。ただし、教員になった場合、地理教育や教科指導法の研究は可能ですが、アカデミックな地理学研究はなかなか困難な状態にあることには留意する必要があります。

社会科教員養成を主として勤務していますが、地理学的アプローチも遅まきながら

行っています。教育地理学として学校統廃合関係の調査（主に隠岐の島）や、デジタル伊能図を活用して岡山県内の伊能忠敬の測量の足跡をたどっています。第7次・8次測量では内陸地域が綿密に測量されていることや、多くの神社を訪ねていることに関心があり、美作では後醍醐帝行宮跡へ、備中では景勝地豪溪へ測線が延びていること（図6）を見出し、観光の色合いも感じることに興味を引かれている今日です。今後研究を深めていきたいと考えています。



懇親会にて

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

研究室便り

＜成田孝三先生（名誉教授）のご逝去について＞

2018年2月8日、成田孝三先生がご逝去されました（享年82歳）。成田先生は、1958年3月に京都大学文学部（人文地理学専攻）をご卒業の後、修士課程、博士後期課程に進まれました。京都大学文学部で助手を務められた後、愛知県立大学を経て、大阪市立大学経済学研究所に赴任されました。この間、何度も文学部で非常勤講師を務められました。1991年4月からは、京都大学大学院文学研究科に移られ、1999年3月に退職される8年間に、多くの学部生、院生の指導に当たられました。

学生時代に実習室で成田先生の都市地理学の講義を受けたおり、いつも少しうつむき加減で、静かにお話を進められていたこと、大阪市大に所蔵されている雑誌の論文についてうかがったら、翌週、コピーを持ってきてくださったこと、穏やかで優しかったご様子が脳裏に浮かびます。わたしが福井大学に在職中、福井県地理学会での講演をお願いした際には、泊まりがけの出張にもかかわらず、気さくに引き受けてくださいました。京都大学退職前には、学位論文の主査も務めてくださり、試問の際には、あれこれ厳しいご指摘をいただいたことも、懐かしい思い出です。退職後もたびたび、秋の談話会の集まりに元気な顔を見せ

てくださり、心強く思っておりました。

成田先生へのたくさんの感謝を込めて、
心からご冥福をお祈りいたします。

(田中和子 記)

＜総合博物館での 地図資料等の利用について＞

総合博物館地理資料部門に収蔵されている地図資料等の閲覧・撮影などを希望される方は、他の文化史部門(日本史・考古学)同様、お手数ですが、下記の窓口までご連絡のうえ、所定の手続きをお取りくださいますよう、お願いいたします。

京都大学総合博物館 事務室

電話：０７５－７５３－３２７２

※地図資料のうち、収蔵部局が不明なものについては、地理学共同研究室にお問い合わせください。

電話：０７５－７５３－２７９３

＜外国人研究者～滞在中の方～＞

2019年3月15日～2020年3月2日の期間、尹波涛(イン・ボータオ)先生(陝西師範大学)が、招へい外国人学者として、教室に滞在される予定です。尹先生には、古代中国における少数民族のエスニック・アイデンティティーと祖先の記憶について、ご自身の研究を進められるかたわら、講演などもしていただく計画です。

＜第七回東アジア人文研究 ワークショップの開催と参加＞

2019年3月18日～23日に、上海の復旦大学文史研究院において、第七回東アジア人文研究博士学生ワークショップが開催され、京都大学文学研究科の地理学専修(熊野貴文、谷本涼、堀川泉の3名)、中国語学中国文学専修、中国哲学史専修、社会学専修の大学院生14名、ならびに関係専修の教員2名が参加しました。

ワークショップには、復旦大学から21名(主催校)、香港城市大学8名、あわせて43名の院生の参加がありました。19日は開幕式に引き続き、三校が合同で調査を進めてきた京都大学所蔵の「苗蛮図」について三校の学生たちが多角的に報告を行い、復旦大学・葛兆光教授による広い視野に立った講評がなされました。

19日午後から20日にかけて、「明清時代と東アジア海域」「現代に向かう東アジア世界」「東アジア社会と都市研究」など9セッションが設定され、各大学の学生が司会進行を務め、中国語・英語を駆使した多彩な研究発表が展開されました。全セッションで学生らが講評を担当し、活発な意見交換が繰り広げられました。

21日からは杭州への巡検が行われました。良渚遺跡で遺構見学、浙江省博物館の見学、茶畑が広がる龍井村での茶文化体験、靈隠寺の参拝と、内容豊かで、学生同士の対話も広がった有意義なツアーでした。

今回のワークショップでは、過去のワークショップに参加した OB、OG も準備係やコメンテータとして参加し、これまで以上に学生主体の形式となりました。次回は 2020 年春の開催を予定しています。



開幕式の様子

＜画像アーカイブの公開 ～古地図とステレオグラフ～＞

2019 年 3 月 1 日、京都大学貴重資料アーカイブに地理学教室所蔵の古地図 19 点の画像データが公開されました。

<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

画像が公開された古地図のうち、『海瀬舟行図(海辺之絵図)』は、大判であることに加え、折り込みが非常に複雑で、現物全体を広げるのがたいへん難しい資料です。ぜひ、デジタル画像でご覧いただけたらと思います。

また、2019 年 3 月 29 日、地理学教室で所蔵する、245 枚のステレオグラフの画像

データベース（書誌情報を含む）を公開することができました。

<https://stereograph-ku.wixsite.com/stereograph-ku>

画像公開の作業は、2018 年度の地理学専修のリサーチ・アシスタントを務めた谷本涼（博士後期課程）が担当しました。ギャラリー 12 のアニメーションにご注目ください。

＜地理学教室への寄贈図書 ～2018年度～＞

昨年度、地理学教室にご寄贈いただいた図書、雑誌等の一覧です。寄贈してくださいました方々に厚く御礼申し上げます。これらの図書は、文学研究科図書館または地理学共同研究室に配置し、学生ならびにスタッフの研究・教育に活用させていただいております。卒業生の皆様にもご利用いただけますので、どうぞご活用ください。

（図書）

- ・移民社会アメリカの記憶と継承／学文社
- ・探検家ヘディンと京都大学／京都大学学術出版会
- ・全・地球学 1996-2017 フォーラム「地球学の世紀」22 年 134 人の知の試み／ウェッジ
- ・同業者町の研究／清文堂
- ・近代日本のフードチェーン／海青社
- ・救援物資輸送の地理学／ナカニシヤ出版
- ・地理の目で歩くスイス・アルプス／ナカニシヤ

出版

- ・グローバル・ヒストリー／中央大学出版部
- ・絵図にみる幕末の北辺防備／古今書院
- ・実践 統合自然地理学／古今書院
- ・日米地域銀行の存続と再編／ミネルヴァ書房
- ・SUMMER SCHOOL 2018 日本史学・国語学国文学・美術史学・考古学編（京都大学大学院文学研究科）
- ・京都学講座 テキスト（地理学編）—京都大学日本学サマースクール 2018 / 京都大学大学院文学研究科地理学専修
- ・グアテマラを知るための 67 章／明石書店
- ・平成 30 年度特別展 王者のひつぎ—狭山池に運ばれた古墳石棺／大阪府立狭山池博物館
- ・焼畑のむら 昭和 45 年，四国山村の記録／柊風舎
- ・ルーラル 農村とは何か／農林統計出版
- ・海洋地質図 no.90 (CD) 沖縄島南部周辺海域海洋地質図
- ・踊りと身体の回路／青弓社
- ・都市が壊れるとき／人文書院
- ・地図の進化論／創元社
- ・戦争を取材する／講談社
- ・卒論・修論のため自然地理学フィールド調査／古今書院
- ・日本列島 100 万年史／講談社
- ・地図学の聖を訪ねて／二宮書店
- ・地図でみる日本の外国人 改訂版／ナカニシヤ出版
- ・新聞・雑誌に見る私の歩み／金坂清則
- ・韓国地理：우리 국토 全体와 自然과 人文／法文社
- ・地図で読む 京都・岡崎年代史／京都岡崎魅力づくり推進協議会
- ・銀燦黔彩：貴州少数民族服飾／國立故宮博物院
- ・古地図で楽しむ伊予／風媒社
- ・地図で楽しむ京都の近代／風媒社
- ・絵図と映像にみる山岳信仰／海青社
- ・生活文化の地理学／古今書院
- ・広島菜栽培地域川内地区の経済地理学的研究／広島経済大学地域経済研究所
- ・アクション・グループと地域・場所の形成／専修大学社会科学研究所
- ・Bateman, *New Zealand historical atlas* / D. Bateman
- ・*Multidisciplinary Studies of the Environment and Civilization Japanese Perspectives* / Routledge
- ・*Diversification and reorganization of 'family' in Uganda and Kenya: a cross-cultural analysis* / Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies

(雑誌)

- ・茨城地理 第 19 号（茨城地理学会）
- ・エネルギー史研究 No.33（九州大学記録資料館）
- ・えりあぐんま 第 24 号（群馬地理学会）
- ・観光科学研究 第 11 号（首都大学東京都市環境科学研究科）
- ・関西学院史学 第 46 号
- ・京都外国語大学ラテンアメリカ研究所紀要 No.17
- ・京都府漁協だより 第 19 ～ 23 号（京都府漁業協同組合）
- ・空間・社会・地理思想 第 22 号（和歌山大学 大阪市立大学）
- ・駒澤地理 第 54 号

- ・しま No.253 ～ 257 (財団法人日本離島センター)
- ・人文学部紀要 第 38 号 (神戸学院大学人文学部)
- ・石炭研究資料叢書 No.39 (九州大学記録資料館)
- ・地域学研究 第 31 号 (駒澤大学応用地理研究所)
- ・地域研究 Vol.58 (立正地理学会)
- ・地域研究年報 40 (筑波大学人文地理学・地誌学研究会)
- ・地域と社会 第 21 号 (大阪商業大学比較地域研究所)
- ・地學雑誌 Vol.127, No.2 ～ No.6, Vol.128, No.1
- ・地図情報 Vol.38, No.1 ～ No.4
- ・地図ジャーナル No.183
- ・地理 5 月号 Vol.63 (5 ～ 12 月号), Vol.64 (1 ～ 4 月号)
- ・地理学研究 第 46 号 (駒澤大学大学院地理学研究会)
- ・地理学談話会会報 復刊 21-25 号 (2010-2014 年) (京都大学文学部地理学教室)
- ・地理学評論 Vol.91, No.3 ～ 6, Vol.92, No.1～2
- ・地理学報告 第 120 号 (愛知教育大学地理学会)
- ・地理研究 25 ～ 26 号 (法政大学大学院)
- ・地理誌叢 第 59 卷, 第 2 号 (日本大学地理学会)
- ・東京大学人文地理学研究 第 22 号
- ・東北学院大学論集 歴史と文化 第 57 ～ 58 号
- ・東北文化研究所紀要 第 50 号 (東北学院大学)
- ・砺波散村地域研究所研究紀要 第 35 号
- ・奈良大地理 第 23 号 (奈良大学地理学会)
- ・人間科学 第 38 号 (琉球大学法文学部人間科学学科紀要)
- ・人間文化 H&S 43 ～ 44 (神戸学院大学人文学会)
- ・広島大学現代インド研究 空間と社会 Vol.8
- ・兵庫地理 第 63 号 (兵庫地理学協会)
- ・文化史學 第 74 号 (同志社大学・文化史学会)
- ・法政地理 第 50 号
- ・待兼山論叢 日本学篇 52 (大阪大学大学院文学研究科)
- ・立命館地理学 30
- ・歴史人類 第 47 号 (筑波大学大学院人文社会科学研究科)
- ・歴史地理学野外研究 第 18 号 (筑波大学人文社会科学研究科)
- ・早稲田大学大学院教育学研究科紀要 No.29
- ・早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊第 26 号-1 ～ 2
- ・AFRICAN STUDY MONOGRAPHS Vol.39, No.2 ～ 4
- ・AFRICAN STUDY MONOGRAPHS Supplementary Issue no.57
- ・GEOGRAPHICAL REPORTS OF TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY No.53
- ・IATSS Review. Vol.43, No.1 ～ 3
- ・Japanese Journal of Southeast Asian Studies 東南アジア研究 Vol.56, No.1 ～ 2
- ・SOUTHEAST ASIAN STUDIES Vol.7, No.1 ～ 3
- (報告書)
- ・2017 年度 地域調査実習報告書 「岡山・長野」 (金沢大学人文学類地理学教室)
- ・広島県尾道市の地理 地理学実習報告書 (42) 2017 年度 (関西大学地理学・地域環境学教室)
- ・熊本大学地理学研究 第 7 号「鹿児島県甕島地域調査報告」
- ・国士舘大学地理学報告 No.26 (国士舘大学)

地理学会)

- ・大阪府立狭山池博物館研究報告 9
- ・2018 年度実習報告書 鹿児島市／京都大学文学部地理学教室
- ・学術研究助成報告集 国土地理協会助成担当編 第4集
- ・平成30年度成果報告 京都大学所蔵『苗蛮図』五種調査報告—京都大学・復旦大学・香港城市大学三校合同の京都大学所蔵東アジア関連文物研究／京都大学大学院文学研究科
- ・東北学院大学 東北文化研究所要覧 2018
- ・京都大学東南アジア地域研究研究所 要覧 2018/2019
- ・ANNUAL REPORT OF THE MURATA SCIENCE FOUNDATION No.32

＜研究室の動静＞

研究室の事務は、引き続き三上純子さんをお願いしております。

本年度は、大学院博士後期課程7名、修士課程6名、学部4回生26名、3回生10名、研究生1名が在籍しています。

＜新メンバーの自己紹介＞

本年度は、新たな顔ぶれとして、3回生10名を迎えました。2018年秋から在籍されている研究生の方も一緒に、簡単に自己紹介していただきます。

(3回生)

石川 佳果 (いしかわ よしか)

はじめまして、石川佳果と申します。徳島の、中でもとりわけ辺鄙な三好市というところで生まれ育ちました。カレーうどんが好きなので、もちろんカレーうどんも好物です。テーマを決めて遠くに出かけるのも好きです。これからよろしくお願いします。

牛田 聡実 (うしだ さとみ)

今年度より地理学専修の一員となりました、牛田 聡実です。出身は京都府北部で、中高と吹奏楽部に所属し、大学では観光ガイド団体と書道部に所属しています。食べることが好きなので皆さんとも好きなもの、お店のお話ができたらと思います。

川合 周 (かわい あまね)

愛知県岡崎市出身の川合周(あまね)です。愛媛県新居浜市で生まれ、以前は宝塚市、箕面市に住んでいました。左投左打で、小中高と野球部でした。大学では軽音サークルに所属しています。漫画が好きです。色々な場所へ行きたいと思っています。よろしくお願いします。

岸 晃宏 (きし あきひろ)

神奈川県横浜市出身の岸です。趣味は自転車で大陸横(縦)断です。今までアメリカ横断、オーストラリア縦断とやってきて、最近アフリカ縦断の挑戦を始めました。(今冬にエジプト、スーダンを走りました。) 良いルートがあったら教えてください。走

りに行きます。

立石 和奏（たていし わかな）

初めまして。新三回生の立石和奏と申します。世界の大自然に憧れて地理学専修にやってきました。好きなものはクラシック音楽と紅茶、そして海外旅行です。地理学専修での学びや出会いが実りあるものとなるよう頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。

出口 大貴（でぐち ひろき）

新3回生の出口 大貴です。大阪府交野市（かたのし）出身で、実家から通っています。地形や、鉄道、道路などの交通に興味があり、時々旅行に行きます。まだどの分野を学ぶか決めかねていますが、よろしくお願いします。

長江 光斗（ながえ こうと）

ながえこうと、です。昔から地図を読むのが好きでここに来ました。戦争遺跡のような近代の都市地理学、民俗学に絡めた部分、同和地区の歴史地理や現状に興味があります。趣味は鉄道旅行で、寺社やアニメの聖地巡礼を兼ねた行き当たりばったりの旅に出ます。

船田 翔太（ふなだ しょうた）

3 回生の船田です。愛知県豊川市出身で、豊川稲荷が三大稲荷として有名です。旅行が趣味でゴールデンウィークには四国に行こうと思っています。色々地理学の知識についてわからないことも多いのでよろしく

お願いします。

向井 爽人（むない さやひと）

奈良市出身の向井爽人（むかいさやひと）です。熱気球サークル所属で全国の空を飛んでいます。趣味は旅行で、特に地図上で「尖った場所」が好きです。今年中に 47 都道府県制覇と日本四端制覇を達成する予定です。よろしくお願いします！

森下 凌（もりした りょう）

はじめまして。三回生の森下凌です。のびのび研究できそうなので地理学専修を選びました。散歩が好きです。地理学の知識はまだ浅いですが、これから勉強していきたいです。宜しくお願いします。

（研究生）

金 玗熙（きむ ひょんひ）

地理学科の研究生金玗熙（キムヒョンヒ）です。韓国から参りました。私は自然地理学科の生態学を勉強しました。島の自然と人間活動、そして共存についてたくさんの関心を持っています。どうぞよろしくお願いします。

〈2018年度の実習旅行〉

2018 年度は、10 月 22 日から 25 日まで、鹿児島市において、2 回生・3 回生計 14 名が調査を行い、報告書を作成しました。



錦江湾と桜島を望む風光明媚な区間を走る
日豊本線（撮影：上中健士朗）

〈学部卒業生・院生の進路〉

（学部卒業生）

山口 凜	文学研究科（修士課程）
赤壁 諒一	（株）克蘭ディム
秋本 啓太	島根県庁
岡崎 真琴	福山通運（株）
岡本 瑞紀	文学研究科（修士課程）
栢野 ななせ	読売新聞大阪本社
田中 沙枝	関西電力（株）
皆木 香渚子	アジア・アフリカ地域研究 研究科（修士課程）
吉野 月華	アジア・アフリカ地域研究 研究科（修士課程）

（修士課程修了生）

仲田 志織	
桑林 賢治	SG ホールディングス（株）
神品 芳孝	農学部（科目等履修生）
粉川 春幸	アドソル日進（株）

土岐 馨 文学研究科（博士課程）

中野 洋志 農林水産省

（博士後期課程修了生）

熊野 貴文 明治大学大学院（P D）

〈院生の研究状況の報告〉

2018 年度までの院生の研究状況を報告
します。以下は、査読を経た論文のリスト
です。

D 3 朝倉 慎人

- ・商品化する農村空間における「真正」で
多様なルーラリティの構築と並立—群馬
県みなかみ町たくみの里を事例に一，地
理学評論，91-6，437-461（2018）.
- ・生活空間への観光のまなざしと住民の対
応—徳島県三好市東祖谷地域を事例とし
て一，人文地理，66-1，16-37（2014）.

D 3 芝田 篤紀

- ・ナミビア北東部ブワブワ国立公園にお
ける住民の生業活動と植生の関係，地理
学評論，91-54，357-375（2018）.

D 3 大谷 侑也

- ・ケニヤ山における氷河縮小と水環境の変
化が地域住民に与える影響，地理学評論，
91-3，211-228（2018）.

D 3 谷本 涼

- ・都市郊外における病床へのアクセシビ
リティの将来推計—大阪都市圏北部の事例
一，人文地理，69-4，425-446（2017）.

- ・京都市のタクシー業界による移動サービスの多様化，人文地理，67-3，252-266（2015）.

D 2 岡田 眞太郎

- ・指定管理者制度の活用からみた NPO 法人の持続可能性—京都府を事例に一，人文地理，68-3，355-373（2016）.

＜学位の取得～2017年度・2018年度～＞

2017 年度と 2018 年度に学位を取得された方のお名前と論文題目は，下記のとおりです.

2017 年度 ＊論文博士

福本 拓：近現代日本の都市におけるエスニック集団の集住形態の諸相
中辻 享：ラオス焼畑民の土地利用戦略

2018 年度 ＊課程博士

熊野 貴文：ポスト成長時代における都市圏の住宅・土地市場に関する地理学的研究：大阪大都市圏を事例に

＜2019年度 講義題目＞

＊講義（系共通科目）＊

水野一晴・米家泰作 地理学概説

＊特殊講義＊

教授 田中和子 Spatial Analysis of Premodern Maps I（前）／Spatial Analysis of Premodern Maps II（後）

教授 水野一晴 世界の自然環境と人々の生活や社会 1（前）／世界の自然環境と人々の生活や社会 2（後）

准教授 米家泰作 山と森の歴史地理（前）／近代の地理的知と帝国日本（後）

人環教授 小方登 地理情報・衛星画像の処理・分析の基礎（前）

人環教授 小島泰雄 現代中国の都市と農村（前）

人環教授 山村亜希 戦国・近世都市を読む・歩く（前）

防災研准教授 松四雄騎 湿潤変動帯の自然地理学とその応用としての斜面減災論（前期・集中）

講師 内藤正典 イスラーム世界と西欧の相関地域論（後）／ヨーロッパとイスラーム（後）

講師 小池司朗 人口統計と地域人口分析（前期・集中）

講師 手代木功基 環境地理学の基礎と実践 1（前）／環境地理学の基礎と実践 2（後）

講師 星田侑久 GIS の理論と応用（前期・集中）

＊演習 I

—地理学研究法—（前期・後期）＊

田中和子・水野一晴・米家泰作

＊演習Ⅱ

— 4 回生演習—（前期）（後期）＊
田中和子・水野一晴・米家泰作

＊講読＊

教授 田中和子 Reading English Materials
on Geography I （前）／Reading
English Materials on Geography II
（後）

教授 田中和子 Reading German Materials
on Geography（通年）

白眉センター准教授 田中祐理子 フラン
ス地理書講読 （前）（後）

人文科学研究所助教 宮紀子 中国地理書
講読（前）（後）

＊地理学実習（通年）＊

水野一晴・米家泰作

＊大学院演習—地域の諸問題—（通年）＊

田中和子・水野一晴・米家泰作

＊大学院演習

人環教授 小島泰雄 place 論から地域を
考える（後期）

人環教授 山村亜希 信長の地理を読む
（後期）

事務局から

【資金会計】

＜収入＞

年会費 114,000

寄附金 0

利子 0

前年度繰越金 115,800

計 229,800

＜支出＞

運営への振替 151,806

郵便振替手数料 5,670

次年度への繰越 72,324

計 229,800

【運営会計】

＜収入＞

資金会計からの振替 151,806

秋季懇親会会費 43,000

春季懇親会会費 154,800

計 349,606

＜支出＞

秋季懇親会 32,911

講師 3 名交通費 36,200

OB 交流会経費 0

春季論文発表会経費 154,800

会報・名簿等印刷費 15,000

会報製本費用 5,931

通信・文具等費 104,764

弔電・供花等 0

計 349,606

＜地理学談話会2018年度会計報告＞

（2018 年 4 月 1 日～ 2019 年 3 月 31 日）

<訃報>

前回の会報発行以降，次の方々がお亡くなりになりました（お亡くなりになったとのお知らせをいただいた方を含みます）．
謹んでご冥福をお祈り申し上げます．（確認分，（）内は卒業年，敬称略）

相本 哲郎 （1959 年卒）
若山 豊次 （1946 年卒）
成田 孝三 （1958 年卒）
河合 喜久男 （1943 年 9 月卒）

<住所不明者についてお願い>

以下の会員の住所が不明です．ご存じの方は，談話会事務局までご一報ください．

（数字は卒業年，敬称略）

安福 伸光 （1997 年卒）
李 禧淑 （2001 年博卒）
池内 麟太郎 （1973 年卒）
石角 強 （1970 年卒）
石田 陽介 （2002 年卒）
石橋 弘嗣 （2006 年卒）
石原 大嗣 （1997 年卒）
石原(林) 美歩 （1995 年卒）
石村 裕輔 （1992 年卒）
井上 一男 （1955 年卒）
今井 平八 （1944 年卒）
岩部 敏夫 （1991 年卒）
上田 直人 （2009 年卒）
上村 謙介 （1998 年卒）
内山 隆之 （1987 年卒）
江崎 健治 （1992 年卒）

遠藤 元 （1996 年卒）
遠藤 正雄 （1978 年卒）
太田 隆文 （1997 年卒）
大野 宏 （1992 年卒）
大山 晃司 （1995 年卒）
岡本 靖一 （1967 年卒）
岡本 美津子 （1987 年卒）
興津 俊之 （1991 年卒）
小口 稔 （1991 年卒）
楓 雅之 （泰昌）（1945 年卒）
片寄弘也 （2004 卒）
勝村(赤座) 眞知子（1973 年卒）
叶谷 房子 （1998 年卒）
川合 大地 （1998 年卒）
川添 和明 （1995 卒）
貴志 謙介 （1981 年卒）
木地 節郎 （1949 年卒）
北口 卓美 （1990 卒）
木村 宏 （1949 卒年）
木村 洋之介 （1949 年卒）
木村 理恵 （2002 年卒）
久保田 彰 （2013 年卒）
坂部 誠治 （1991 年卒）
島崎 郁司 （1996 年卒）
嶋野 浩一朗 （1997 年卒）
清水 究吾 （1998 年卒）
新谷 泰久 （1990 年卒）
鈴木 伸国 （1988 年卒）
田島 渡 （1948 年選卒）
田辺 賢一郎 （1949 年卒）
田村 麗花 （2014 年卒）
都子 屋 （1940 年委卒）
帛田 剛 （2014 年卒）
長尾 拓磨 （2013 年卒）

中山 耕至 (1993 年卒)
那須 久代 (1988 年卒)
檜崎(藤川) こず恵(1998 年卒)
南部 一寿 (1999 年卒)
西井(小林) 理子(2002 年卒)
西尾 正隆 (1970 年卒)
西澤 仁晴 (1974 年卒)
西山 隆彦 (1995 年卒)
能勢(朝倉) 正寛(1962 年卒)
野瀬 美咲 (2010 年卒)
林(東) 洋子 (1965 年卒)
原 健太 (2003 年卒)
原 潤 (1997 年卒)
平井 素子 (1996 年卒)
福田 新一 (1971 年卒)
古川 昇平 (2006 年卒)
前田 奈実 (1999 年卒)
松井 威 (2001 年卒)
松本 弘史 (1983 年卒)
御手洗 央治 (1993 年卒)
宮澤 博久 (2005 年卒)
宮原 耕一 (1994 年卒)
村角 浩明 (2006 年卒)
野城 千穂 (2017 年卒)
保江 志帆 (2003 年卒)
山口 一郎 (1980 年卒)
山口 秀樹 (1997 年卒)
山下 良 (1989 年卒)
山田 潤哉 (1997 年卒)
山田(児玉) 憲子(1970 年卒)
山田 浩子 (2000 年卒)
山中 一高 (1991 年卒)
吉岡 朝日 (2003 年卒)
吉野 修司 (1995 卒)

吉村 健志 (2002 年卒)
六嶋 美也子 (1993 年卒)
渡邊 克己 (2004 年卒)

＜オープンキャンパス：2018年度の 報告と2019年度のお知らせ＞

2018 年 8 月に京都大学のオープンキャンパスが開催されました。文学部の見学・説明会もこの一環として、9 日に行われました。文学部の全体説明の後、地理学を希望する高校生のみなさんには、地理学専修の見学や在学生たちとの懇談を楽しんでいただきました。

2019 年度の京都大学主催のオープンキャンパスについては、
<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/>
をご覧ください。文学部の見学・説明会は、
8 月 9 日（金）の予定です。

地理学教室では、大学院の受験志望者や、
中学高校の教員の方々、また、卒業生の方々にも参加していただけるような見学会を
11 月 9 日（土）に開催する予定です。詳細な日程は参加申し込みの案内は、地理学
教室のホームページ、
http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/geography/geo-top_page/
に掲載いたします。

＜2019年度秋季地理学談話会の お知らせ＞

本年は、下記のようなプログラムを予定しております。ぜひお越しください。

日 時：11月9日（土）

午後1時－6時30分

場 所：文学部新館

◎教室見学会：午後1時より

◎OB交流会：午後2時より

講師：江崎 洋平氏（2012年卒）

須藤 梢氏（2013年卒）

（文学部新館 地理学実習室）

◎講演会：午後3時30分より

講師：出田 和久氏（1976年卒）

（文学部新館 地理学実習室）

◎懇親会：午後5時より

（文学部新館 地理学生共同研究室）

☆一年あたり千円を目処として、それぞれの会員の方々に、談話会の運営経費へのご協力をお願いしております。随時、ご支援をお願いいたします。納入の際は、同封しております「郵便振替用紙」をご利用ください。

また、郵便振り込みも可能ですので、下記の口座をお願いいたします。

みずほ銀行 出町支店（普）

1143293 チリガク ダンワカイ

（チリガクとダンワカイの間にスペース有り）

京都大学文学部地理学教室談話会 会報 第 30 号

発行日 2019 年 5 月 15 日

発行者 地理学談話会

〒 606-8501

京都市左京区吉田本町

京都大学文学部 地理学教室内

TEL : 075-753-2793 (直通)

発行所 京都大学文学部地理学教室

URL http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/geography/geo-top_page/